

経済社会における会計の意義と役割

～環境保全と経済発展のバランスを
考えた持続的な社会の構築～

鳥取環境大学 経営学部

2014年6月3日

公認会計士・監査審査会
常勤委員 廣本 敏郎

公認会計士・監査審査会の組織と業務

- 設置

- 一連の不正会計事件による会計不信の世界的な高まりを背景に、欧米での監査監督機関の設立と併行して、独立して職権を行使する合議制の行政機関として2004年（平成16年）に設置

- 前身は公認会計士審査会。その沿革は公認会計士法が制定された1948年まで遡る。

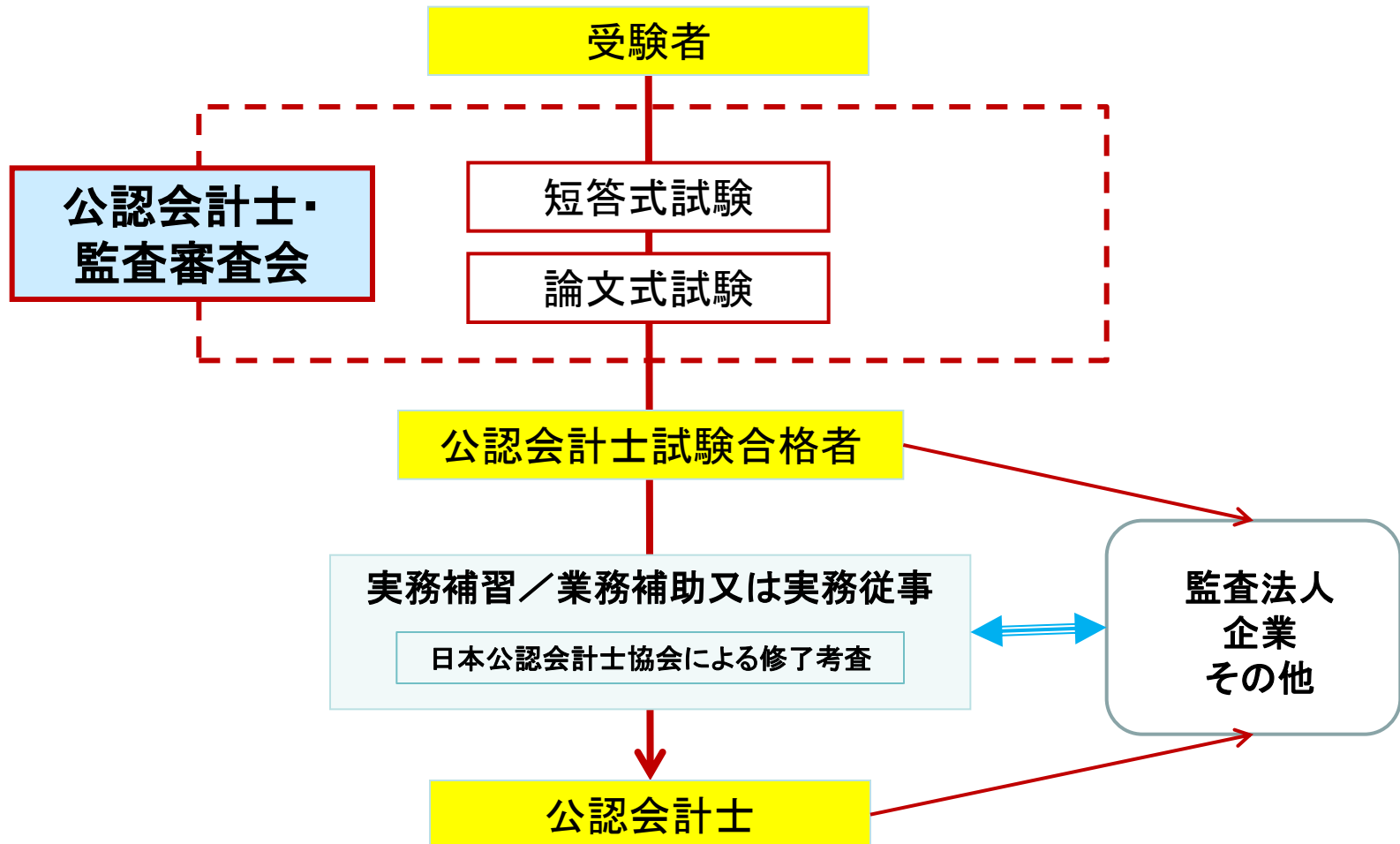
- 業務内容

- 公認会計士試験の実施、監査事務所の検査など

- 組織

- 審査会（会長1名、委員9名）、事務局

試験実施機関としての審査会



公認会計士の使命

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

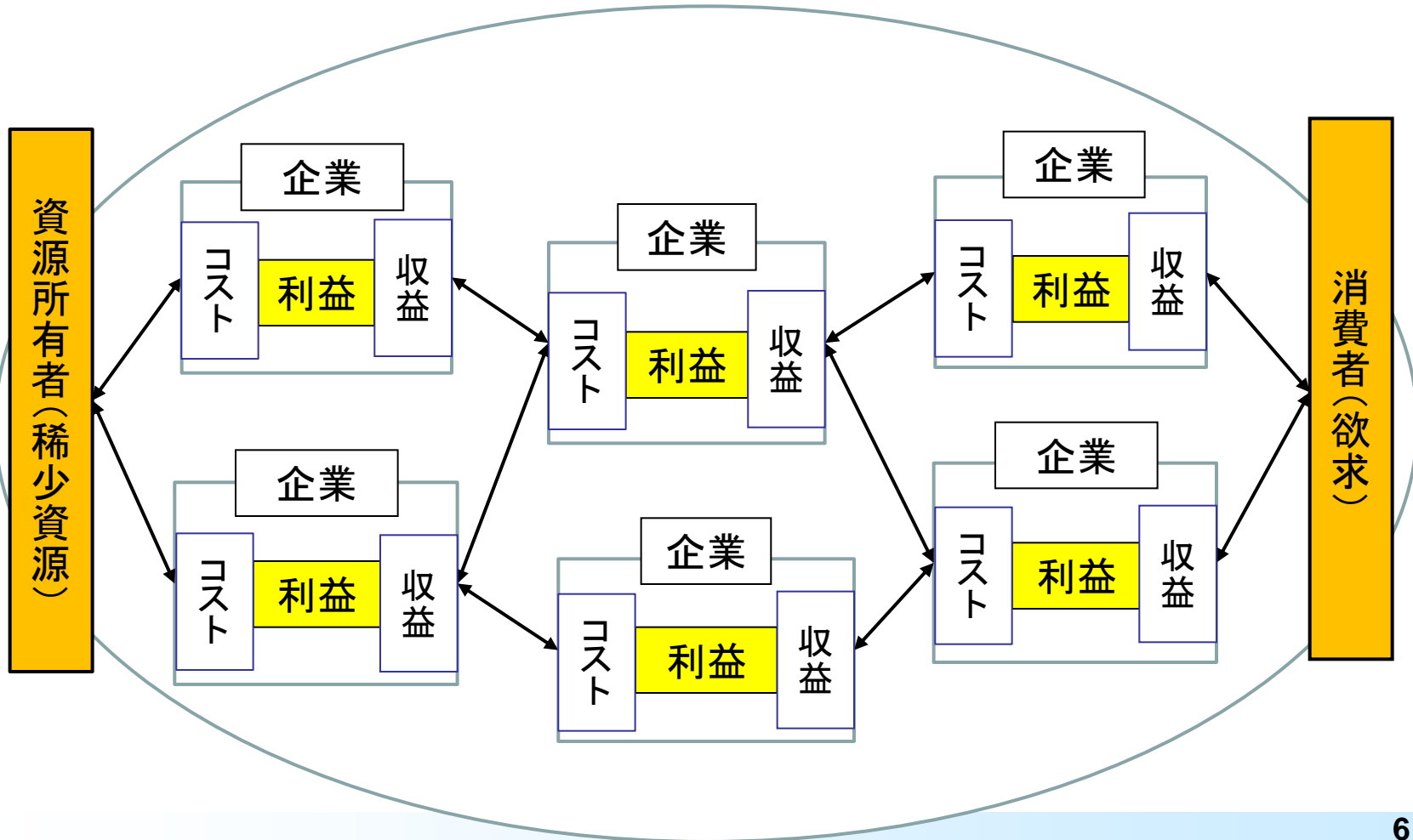
(『公認会計士法』第1条)

経済社会における会計の意義と役割

市場経済と会計・監査

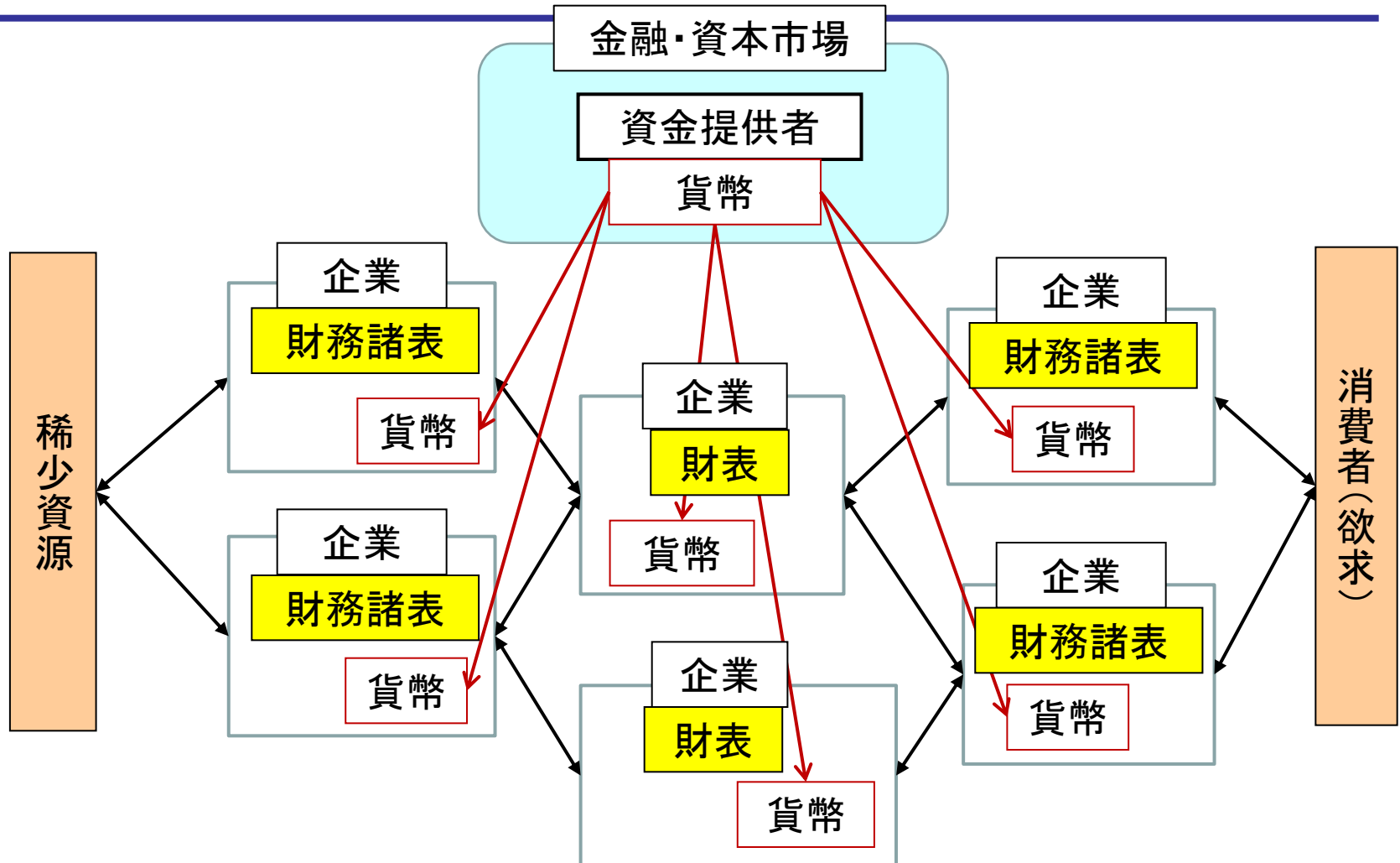
会計なくして経済なし

— 企業の行動原理「収益最大、コスト最小」 —

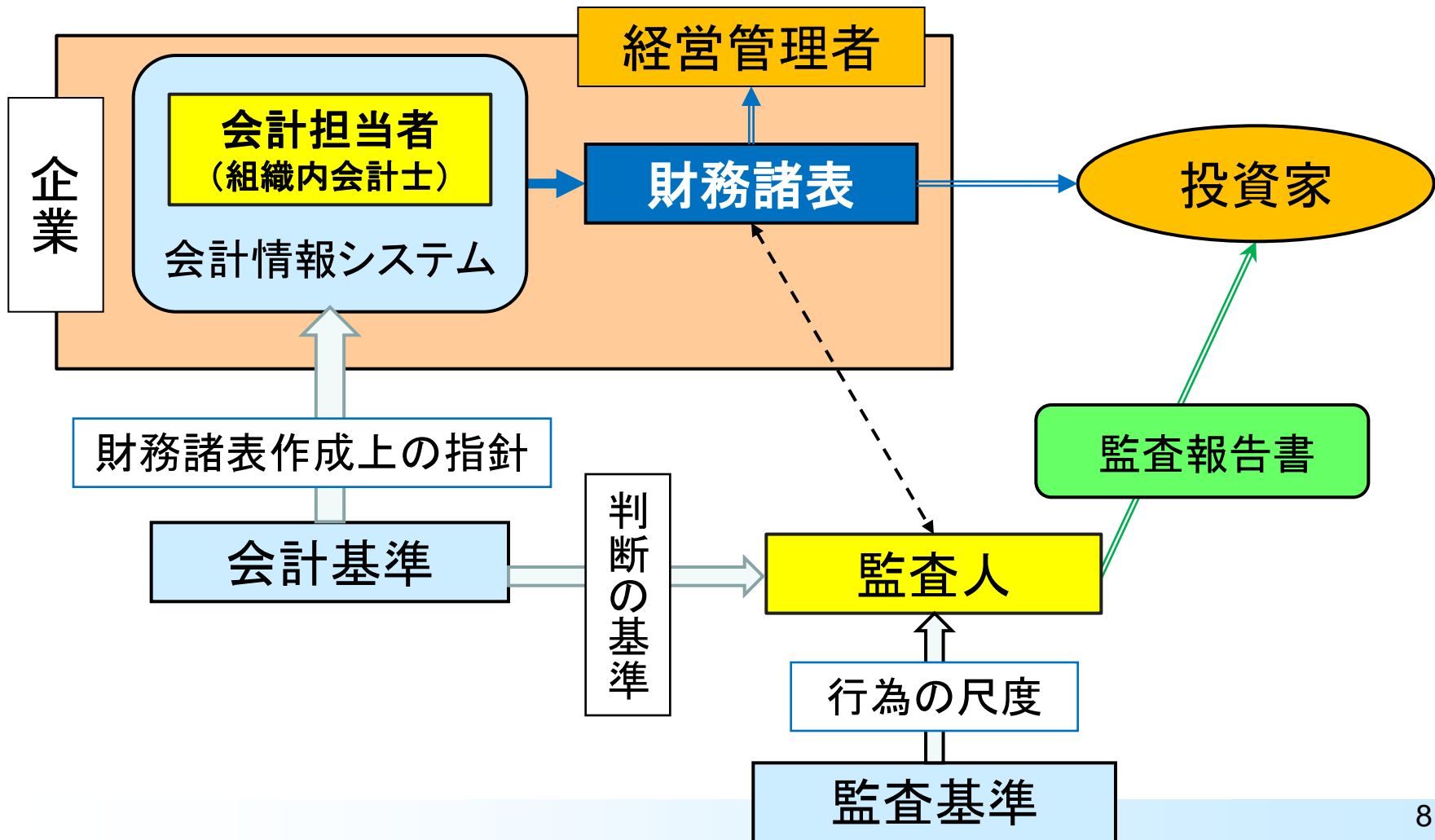


実体経済を支える金融・資本市場

— 国民経済における資金の有効かつ効率的配分 —



財務諸表の信頼性確保と公認会計士



経済社会における会計の意義と役割

環境と調和のとれた経済社会と会計

鳥取環境大学の目的

- 鳥取環境大学は、広く知識を授け、深く専門の学術を教育・研究し、人と社会と自然との共生を実現していくため、豊かな人間性にあふれ、自ら考え行動し、力強く生きる人間を育成します。また、持続的な社会の発展を目指し、地域の自然環境や人と人とのつながりを大切にするローカルな視点を持ちながら、自然環境の保全と人類の経済発展の両面にわたりグローバルに活躍できるバランス感覚に優れた、地域を担う人材、世界に羽ばたく人材を育成します。

【出所：鳥取環境大学ウェブサイト】

環境問題と経済活動

- 経済活動 ⇒ 資源消費を伴う
 - 過剰な資源消費が、環境問題を惹き起こす。
 - 資源消費を抑制することで、環境問題を緩和することができる。
- 環境問題と会計の関係
 - 会計では、資源犠牲（資源消費）をコストとして認識・測定し、原価計算を行う。
 - 原価計算を活用することによって、資源消費を適切にコントロールすることができる。

MFCA

- MFCA (Material Flow Cost Accounting: マテリアルフローコスト会計) はドイツで開発され、2000年に日本に紹介された管理会計手法であり、「マテリアル (原材料) のロス を物量とコストで “見える化” する」手法として、マテリアルロスの削減の取組みに大きな効果を持つと評価され、ここ数年急速に普及を始めているといわれている。

【注】 MFCAに関する以下の記述は、日本MFCAフォーラムのウェブサイト に依拠している。

MFCA（続）

- マテリアルロス削減の取組みは、マテリアルの使用量および購入量を削減し、原材料費の低減に直結するだけでなく、資源効率を高める等の環境負荷低減の取組みになる。従って、MFCAは、企業に経済効率の向上（コストダウン）と資源効率の向上（環境負荷低減）を同時に実現する手法となる。
- MFCAは、2011年9月にISO 14051として発行され、国際標準規格となっている。

MFCAの効果

- 伝統的原価計算では、廃棄物削減が大切であることは、感覚的にはわかっていても、企業経営にとって金額ベースでどの程度重要なのかはすぐには分からない。これに対して、MFCAでは廃棄物の金額が320円（もしくは廃棄物処理費が200円かかるとすれば520円）と明示されることになるので、廃棄物削減のためにどの程度の投資を行えば良いかを検討する情報となる。（74ページ）
- MFCAの分析結果に基づき、今後の改善策が策定され、環境負荷の低減とコスト削減を同時に達成するための最良の改善策が取り組まれることとなる。（79ページ）

（國部克彦・中嶋道靖『マテリアルフローコスト会計』
日本経済新聞社、2002年、71-79頁）

2030年に風呂に入れるか！？

【問題提起】

石田秀輝教授（東北大学大学院環境科学研究科）講演「経済と環境の両立、エコ・ジレンマを認めることから」

（越後ジャーナル、2013年1月26日）より

- 2030年の日本の世帯数は4900万世帯、1回風呂に入ると300リットルの水がいる。その水を20度から40度に温めないと入れない。そんなエネルギーも水も2030年代に供給できないのは明白。では、どうやって風呂に入ったらいいか。

2030年に風呂に入れるか（続）

- 入浴回数を減らす、皆で一緒に銭湯に入る。体を拭くだけにする...こうしたアイデアが多く出てくるが、とても豊かとはいえない。これが私たちの普通の思考回路。
 - これをフォアキャストというが、今日を原点に明日を考えるという考え方。
- 部分最適から全体最適にするためには、フォアキャストではなく、バックキャスト、将来から今を見るという考え方をする。

LCCの利用

- バックキャストにより水の利用量が格段に少ない泡風呂のアイデアが出てくる。
 - そこで、環境問題に配慮する風呂メーカーは、泡風呂を開発することになるだろうが、その際、会計を適切に行う、すなわちLCCなどの原価計算方法を利用することにより、そうした環境問題に配慮した製品を社会に提供しながら、適正な利益をあげることを可能とする方法を講じることができる。